

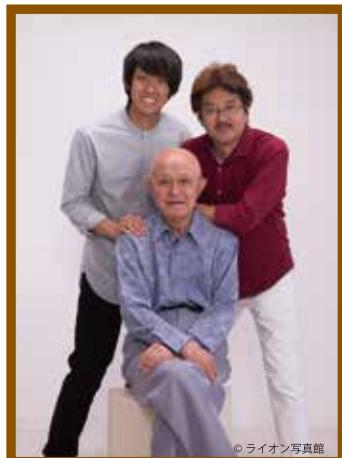
「ライオン写真館」 営業写真館を営むお父さんは  
1975年写専卒。息子は現在、写真学科営業コースの  
2年生。父が息子に教えることは「一期一会」  
技術的なことは自分の努力で補えるが、人との出会いは、  
この瞬間しかないかもしれない。だから大切に。

岩佐 満明 × 美保 × 夏実 × 淳平 × 彩加

© ライオン写真館

■ UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY vol.27

UP! SPECIAL  
HAPPY is  
FAMILY



父と母はジム通いで健康を保つ、  
ボクは写真と野球で健康です。

お母さんはジムに通っているが、習字の趣味があるらしい。息子の淳平の字はお世辞にも美しいとはいえない。どうやらこの部分は親子でも似ていないのだろう。似ている点はお母さん譲りの優しさだらうか。

大黒柱のお父さん（満明・62）の写専時代はどんな学生でしたか？「そりやー、もう写真一筋でしたよ（笑）」小さな声で「いや、雀か遊びもしつかりと…」（笑）写真の技術は直剣に勉強しましたよ。ライオン写真館は私で三代目です。息子にはしっかりと渡してあげたいですから「頼れる父親の顔になった」。そばでは奥様（美保・59）が微笑む。そんな二人を見ている淳平（淳平・24）が言う「父、母、共に尊敬しています。大学まで行かせてくれて、好きな野球もさせてくれて感謝しています。特に母からは人との触れ合いの大切さを教えてもらいましたね。心からの笑顔で相手をしっかりと見守っているところですね。もし、相手が困っていたら、さりげなく手助けできる人になりましたね。生きる基本ですね。この心構えがあるからこそ、営業コースのクラスリーダーとしてみんなから信頼を得ているのだろう。

淳平君には姉と妹がいる。この三人は近畿大学を卒業している。姉を見て、兄を見て、子どもたちが両親をしっかりと見て育ったという共通点もある。家族は、祖父母の英雄さん（92）と律さん（88）の7人構成になっている。「おじいちゃんもおばちゃんも元気で遠くに行っている長女（夏実・25）が帰ってくるとみんなで近くの焼肉屋さんに出かけるんですよ。ここでの焼肉が一番美味しいです（笑）」料理がおいしいのは家族の溢れる笑顔があるからだろう。

今年の夏にお店の改装をしたようだ。「改装時に昔の写真がいっぱい出てきたんですよ。おじちゃんが撮った家族の写真です。親子って似るものですね。ボクはお父さんに似ていて、お父さんはおじいちゃんに似ていて（笑）写真の素晴らしさがここにある。写真の魅力の一つに「記録が記憶として、過去の経験を蘇らせること」というパワーがある。心中にとどめ忘れずにいつまでも覚えている。それは承認的を受けられる。そしてまた再現される感動と喜び。写真是宝物ですね。（は）